

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和8年1月27日（火）

9：30～11：00

場 所：議会棟 第2委員会室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員10名

事務局(企画部長・広報広聴課長・広報広聴課職員)4名

佐久市市民活動サポートセンタースタッフ（さくさぼ）2名

1 開会

2 会長あいさつ

新任委員の紹介 佐久青年会議所 高柳 翔委員

3 会議事項

(1) 佐久市まちづくり活動支援金優良事業表彰受賞団体から出された意見について

【主な要望や意見】

①自走するための段階的支援の要望（3年で終了ではなく4年目以降の支援など）

委員：自走には資金だけでなく、事業計画への助言や伴走支援が必要ではないのか。

さくさぼ：支援期間中であっても事業収入や寄付を得ることを禁止せず、自走に向けた取り組みを応援する姿勢が重要であるとする。

委員：支援金活用が終了した後も、公共施設の減免や市の広報協力などの非金銭的な支援があれば活動が継続しやすい。

委員：自走は非常に困難であるため、市が企業や投資家からの寄付を活動団体へつなぐ役割（マッチング）を果たせないか。

委員：本制度が「スタートアップ支援」なのか「継続支援」なのかを整理する必要があり、市民にとって有益な活動であれば、自走にこだわらず市が積極的に支援する枠組みも検討すべきではないか。

委員：似た目的を持つ団体同士をつなげることで自走しやすくなるのではないか。

さくさぼ：各団体は独自の強い思いを持って活動している。無理な統合は難しいが、既存のネットワークや情報共有の場を活用することは有効であると考えられる。

②人件費等の対象経費の見直し

委員：ボランティアへの謝礼程度（1回1000円など）は対象経費としてほしい。

事務局：人件費は団体の運営経費となることや市の補助金交付基準で対象外経費と定めていることから対象外としているが、ボランティアの謝礼ということであれば、報償費といった形であれば認められる場合もある。

③公共施設の利用率減免や利用しやすい環境づくり

事務局：公共施設使用料については、施設を所管する担当課があるため、調整が必要になってくる。

さくさぼ：支援金活用団体に限らず、一定の実績がある市民活動団体が利用しやすい制度設計を検討すべきと考える。

④市による広報協力（HP、SNS、チラシ等）

事務局：保育所等にチラシの配布協力や事業の周知支援について要望があった。市でも市公式LINEやホームページでの周知協力を行っていることやチラシ等の配布については区長等の負担軽減の観点も指摘されていることから、市の関係部署と調整が必要になってくる。

委員：高齢者にはチラシ、若年層にはSNSが有効であり、ターゲットに合わせた媒体の使い分けや、学校等への配布は有効だと思う。

委員：企業のCSR活動（社会貢献）として資金援助を受けられるケースがあるため、市が「優良事業」という看板を活用して企業へ呼びかける等の支援が有効であると思う。

（2）視察報告

事務局：11月12日に「佐久市・モンゴル親善協会」と「健康運動クラブ」の活動を委員4名と共に視察した。書面審査だけでなく実際の活動を見ることで理解が深まり、委員間の意見交換も有意義であった。

委員：12月17日に「歌って脳トレさんさんサロン」を視察し、多くの参加者がおり活発に活動していた。

（3）その他

事務局より、次回会議は、3月25日に佐久市まちづくり活動支援金の審査を予定している。

4 閉会